

よしの岡れば雨はふる共、田、人見の岡御説ゑみのかた岡事するが、ながなるがなる、いなむら岡君たむば、
はいらのおかの里もをしなべていないはての岡御説みぢう、くちなし、とも岡御説杜鹿岡夕霧の夕霧、
なりの岡御説ほしあひの岡御説よごもりのねがひの岡所名

〔日本書紀二十九〕七年十二月、是月筑紫國大地動之。○中是時百姓一家有岡上、當于地動夕以岡崩

處遷、然家既全、而無破壞、家人不知岡崩家避、但會明後知以大驚焉。

〔萬葉集二〕藤原夫人奉和歌一首

吾岡之於可美爾言而、令落雪之摧之彼所爾塵家武、

〔萬葉集三〕山部宿禰赤人歌六首○五

秋風乃、寒朝開乎、佐農能岡將超、公爾衣借益矣、

〔書言字考節用集一〕峠本朝俗、坂路最高所曰、到、下、太平記

〔倭名類聚抄一〕峯 又用下二字、岑音尋、嶺音領、山尖高處也、

〔箋注倭名類聚抄一〕石、嶺宜訓多牟計、今俗譌呼多字、偈是也、以嶺爲美禰、非是、景行紀、嶺訓多計、亦

非、

〔和漢三才圖會五十六〕嶺音 峠和字、俗云太字介、

嶺山坡也、山路也、中華有五嶺、○中

按、嶺山坡上登當下行之界也、與峯不同、峯如鋒尖處、嶺如領腹背之界也、故如高山、峯一而嶺不一、

箱根相州 湯原奥州 竿吹上州 摺針江州 湯尾越前 鳥居信州 栗殼越中 閩上和州 藤代紀州 大山藝

州

此等嶺得名者也、藤代嶺美景絕言、畫工亦拋筆、

〔東雅二〕韻書を按ずるに、嶺高山之可踰而過者嶺也、如首之有領頂也、といふ事あり、品字此説に